



国際協力田運動

上伊那・長野協力田の田植え終了!

上伊那田は5/30に40名で実施



長野協力田は子供含め39名で実施



アフリカ・マリに米を

連合長野の組合員家族ら40人  
JA長野の国際協力田で田植え



マリに米を送ろうと田植えをする家族ら

食糧難に苦しむ西アフリカマリ共和国に米を送ろうと20日、連合長野の組合員家族ら約40人が長野市内で田植えに取り組んだ。JA長野の食糧支援活動「国際協力田」

連合長野が賛同し、2010年から安曇野市内で米作りを始め、今年では伊那市内を含め3カ所で米作りを行っている。昨年は4・4畝(36坪)、「マリ」を支援の米をマリに送った。南長池の約660坪

方々の水田では、親子連れが梅雨の晴れ間に日を浴びながら田植えに取り組んだ。連合長野の山平三智子さん(36)は、「マリを支援しつづけたらに土に触れて楽しんでほしい」と話した。長野市の伊藤あおいちゃん(7)は、「田んぼに手を入れて苗を植えるのが気持ちよかった」と喜んで顔を赤くしていた。同市の宮本峻史くん(11)は、「遠いマリにお米が届くと聞いてびっくりした。できたお米をおいしく食べてくれるといいな」と笑った。米は来年1月にマリへ送られる予定。【安元久美子】

みずずい



○：飢餓に苦しむ西アフリカマリにコメを贈るため、連合長野の長野地域協議会(長野市)は20日、会の組合員と家族の計39人が長野市南長池の水田で田植え約6坪の田に苗を一本ずつ手で植え、「水が冷たい」「倒れそうだ」などと声を上げながら作業した。

○：参加した団体職員吉沢秀一さん(40)は「土や水に触れると心が和んで童心に帰ります」と笑顔。秋になったら組合員らが刈り取って同国に贈る予定。吉沢さんは「国際支援につながると思うと気持ちが入りますね。」

21日付毎日新聞  
20日付信毎夕刊  
写真右端は埋橋県議会議員